

自ら学び続ける児童の育成を目指して
～筋道を立てて考え、表現する力を高める学習指導の工夫～

有田町立有田中部小学校

1 主題設定の趣旨

本校は、児童数472人、学級数22クラス（特別支援学級6クラス）の中規模校である。世界的にも有名で伝統的な有田焼を主な産業として発展してきた地域で、地域の方々の協力も得ながら、児童はのびのびと学校生活を送っている。素直な児童が多く、与えられた課題に対しては真面目に取り組んでいる。学習面においては、解き方が分かっている問題やパターン化された解法の問題には集中して取り組むことができる。反面、初めて出会う学習課題に対しては、既習事項を使って解こうとしたり、自ら課題を見つけて解決しようとする意欲や主体性がやや不足している。条件に合うものを抽出し、論理的に結び付けて表現する力が未熟であった。

また、これまでの全国学力・学習状況調査および佐賀県学習状況調査の結果より、正答率に関しては全国平均とほぼ同程度であるが、「叙述や資料を基に、条件通りに書いたり、自分の考えを添えて表現したりする」「条件に沿って筋道を立てて考える」問題において個人差が大きかった。

一昨年度より2年間、小中連携による学力向上推進地域指定事業を受けた。有田中学校区内（有田中学校・有田小学校・本校）で学び方や学ぶ習慣を統一し身に付けさせることで、中学校へのスムーズな接続と児童生徒の学ぶ意欲を高めるとともに、「分かった」「できた」という達成感を味わわせることができると考え、学力向上推進事業の目的である基礎・基本の定着と活用力の向上とを対応させながら、表現力を高める学習指導の方法を探ってきた。また、学習規律の定着として、これまでも行ってきた「有田っ子スタイル」を改訂し、家庭（地域）との連携を図り、家庭学習では発達段階に応じた自主学習を設定し、その内容や取り組み方を検討しながら自ら学ぶ児童の育成を目指してきた。

初年度の取り組みとして、『授業づくりのステップ1・2・3 vol.1』『授業づくりのステップ1・2・3 vol.2』を活用して、見通しを持って学ぶ西部型授業スタイルを確立させてきた。児童が主体的に課題解決に取り組むために必要なめあてを意識して、課題解決に向けて情報を取捨選択し、自分なりの考えを持たせる。その後、ペアやグループでお互いの考えを伝え合うことでより良い解決方法を見つけたり、考えを深めたりすることができると思えた。

2年目の昨年度は、「書く活動」を中心に研究を深めていこうと考えた。まず、「自分の考えを持つ」次に「自分の考えを整理するために書く」そして、「伝え合う」最後に「めあてに沿ってまとめる」という授業を展開する中で、「書く活動」の手立てを工夫することを授業の柱と考えて取り組んできた。

研究3年目の本年度は、「題意を読み取る」ことを中心において研究を深めていきたい。

このようにして、小中9年間を通して自ら学び続ける児童生徒の育成を目指し、本主題を設定した。

2 研究の目標

算数科の学習において、一人でタイムで自分の考えを整理するために書いたり、グループタイムで互いの考えを深め合う言語活動を通したりして、表現する力を高める学習指導の工夫を図る。

3 研究の仮説

算数の授業において、自分の考えを持たせるために、「問題文を読み取る力」を育てることで、自分の考えを書くことができ、グループタイムで表現活動の中で、自分の考えを伝えたり友達の考えと比較したり、全体で深め合う学習を行えば、より表現する力が高まり、自ら学び続けようとする児童が育つであろう。

4 目指す児童像

	筋道を立てて考える	表現する力
低学年	・具体的な操作活動を通して考えることができる。	・絵や図、式や言葉で表現することができる。
中学年	・これまでの学習を生かしながら、自分の考えをもつことができる。	・図や式、言葉で表現できる。 ・友だちの考えと比べながら、互いのよさを認め合う。
高学年	・自分の考えを既習事項を活用し、根拠を明確にして考えることができる。	・図や式、言葉で表現することができる。 ・友だちの考えと自分の考えを比較し、付け足したり、検討したりしながら互いに考えを深め合う。

以上のことを踏まえ、目指す児童像を次のように設定した。

- (低) 自分の考えをもち、進んで伝えようとする子ども
 (中) 自分と友だちの考えをくらべ、よさを見つけ合う子ども
 (高) 自分と友だちの考えを比較・検討し、深め合う子ども

5 研究の内容と方法

(1) 授業づくりの取り組み

『授業づくりのステップ1・2・3 vol.1』『授業づくりのステップ1・2・3 vol.2』を基にして、確かな学力の定着・向上を図るための授業の工夫、改善に取り組む。

(2) 学習規律を整えるための取り組み

これまでも行われていた「有田っ子スタイル」を実施するとともに、全職員が共通理解を図って児童の指導に繋げる。

(3) 家庭学習を身に付けるための取り組み

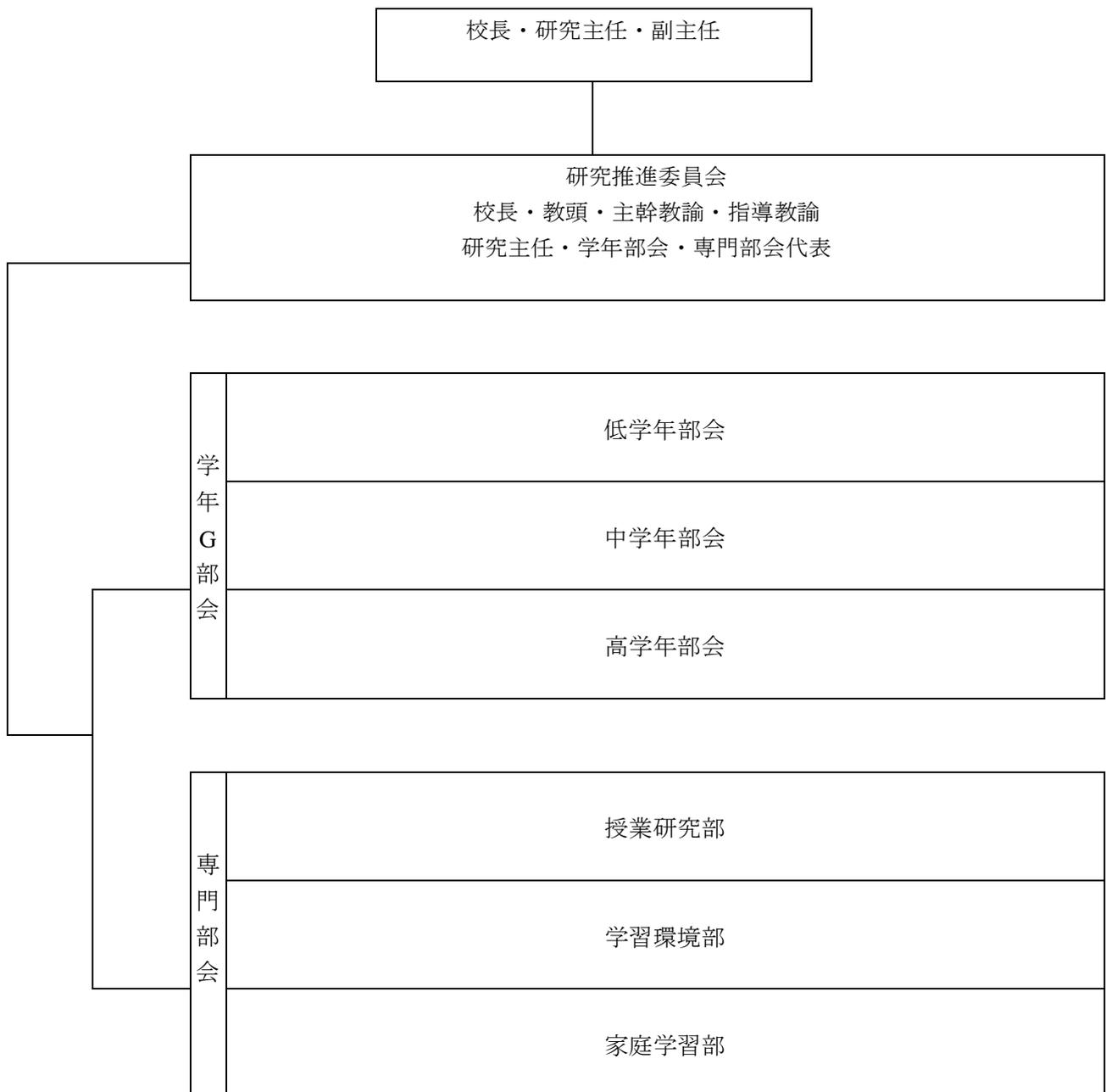
発達段階に応じた自主学習のスタイルを提示し、継続して家庭学習に取り組める指導の工夫を図る。

【有田中部小スタイル】 *令和3年度は「読み取る活動」に重点をおき、研究を進める。

- 1 問題・めあての提示（児童の意欲付け）
- 2 自分の考えを整理するために書く活動【書く】（一人でタイム）
- 3 自分の考えを伝え合う活動【話す・聞く】（グループタイム）
- 4 出し合った考えを、吟味・整理・補充する活動（みんなでタイム）
- 5 めあてに沿ってまとめる活動【書く】（まとめ）
- 6 1単位時間（45分間）を通して学んだことを書く活動（ふりかえり）

6 研究の実際

(1) 研究の組織



(2) 研究推進委員会

ア 研究の方向性を話し合い、今後の研究推進計画を策定する。

イ メンバー…校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、研究主任、研究副主任、学年部会から1名ずつ、各専門部会から1名ずつ

(3) 学年グループ

ア 低学年部会

イ 中学年部会

ウ 高学年部会

(4) 専門部会

ア 授業研究部…『授業づくりのステップ1・2・3 vol.1』『授業づくりのステップ1・2・3 vol.2』を基本に、確かな学力の定着・向上を図るために授業の工夫・改善に取り組む。小中共通した授業スタイルを確立させる。

(ア) 中部小スタイル（西部型授業をベースに）学習過程の流れの確認・修正

(イ) めざす児童像の継続

(ウ) 板書・ノート指導の研究

(エ) 「一人でタイム」・書く活動の手立て

(オ) 横断的なカリキュラムの作成（算数に関して）

イ 学習環境部…『有田っ子スタイル』を実施し、学習規律の定着・充実を図る。小中共通した学習規律を確立させる。

(ア) 「国語タイム」「算数タイム」の計画

(イ) 各学年の算数用語の修正と提示

(ウ) 算数コーナーの設置（継続）

(エ) Q-U（楽しい学校生活を送るためのアンケート）
実施・分析・研修（学級経営に関する研修）

(オ) 教材の整理と保管

(カ) 算数アンケートの実施と分析

ウ 家庭学習部…保護者用リーフレット『家庭学習の手引き』を基に家庭学習の定着・充実を図る。家庭学習の習慣化を図り、児童の学ぶ力を育てる。小中共通したスタイルを確立させ、発達段階に応じた家庭学習の習慣を積み上げる。

(ア) 『中部小学校家庭学習の手引き』の作成

(イ) 家庭学習について保護者への情報発信『つなぐ』発行

(ウ) 自主学習ノートの校内掲示板作成、自主学習の方法について

(エ) ノーメディアデー・パワーアップ週間の実施と集計

(オ) 学びの点検表

(5) 研究推進活動計画

*今後の行事変更にともない変わる可能性あり

日 時	内 容
4月28日(水)	全体研 専門部会
5月26日(水)	年間計画 各専門部より
6月16日(水)	学校訪問の授業準備(環境整備を含む)
6月25日(金)	学校訪問
7月14日(水)	全体研(提案授業) 6年1組「資料の調べ方」
夏季休業中	Q-U研修 評価に関する研修
9月1日(水)	専門部会 2学期の計画
9月8日(水)	グループ研 (全体研授業者の指導案検討)
9月29日(水)	全体研 (年 組) 「 」
10月6日(水)	グループ研(全体研授業者の指導案検討)
10月27日(水)	全体研 (年 組) 「 」
11月10日(水)	グループ研 (年 組) 「 」
12月1日(水)	グループ研 (年 組) 「 」
12月15日(水)	グループ研 (年 組) 「 」
12月22日(水)	グループ研 (研究のまとめ)
1月26日(水)	専門部会(研究のまとめ)
3月2日(水)	校内研究のまとめ
3月23日(水)	来年度の計画